

ことばの教室だより

乙女小学校 ことばの教室
令和6年6月

TEL: 45-4551 (直通)

6月

学校の周りの田んぼも田植えが終わり、稲が植えられた緑の絨毯が広がる風景は、豊かな自然に囲まれた乙女小学校の素晴らしさを改めて感じる瞬間です。ことばの教室から見える中庭では児童が植えたさつまいもやミニトマトなどの野菜の苗がぐんぐんと生長する様子が見受けられます。ことばの教室では様々な場面で湧き上がる子どもたちの「伝えたい」という気持ちを引き出し、「思い」を受け止められるよう心がけていきたいと思えます。

6月の行事予定

- 7日(金) 午後休室(出張のため)
- 12日(水) 5校時休室(特日課4時間)
- 17日(月) 午前休室(新体カテスト)

※17日は、天候によって休室の時間が変更になる場合があります。
(17日の方は、念のためことばのノートをご持参ください。)



【5月の様子より】

今年度の通級が始まり、1か月ほどが経ちました。発音練習で通っている1年生が多いのですが、やっと学校生活に慣れてきたようです。「口の体操」や「舌のトレーニング」にも慣れ、少しずつ基本の舌の形を保てるようになってきました。児童それぞれが抱えている課題を少しでも改善できるように、指導していきたいと思えます。

この時期になると、2年生の国語で「たんぽぽのちえ」という教材の学習があります。枯れてしまったように見えるたんぽぽも「花のじくを休ませて、たねにたくさんのえいようをおくっているのです」という知恵の紹介があります。一見、無駄なことのように見えても、しっかりと種に栄養を与えているという工夫には、毎年のことながら「なるほど」と感銘を受けます。ふわふわの綿毛が遠くに飛ぶまでには、たんぽぽの様々な知恵が隠されています。教材を児童と一緒に読んでいきながら、「すごいよね。初めて知ったことはあるかな？」などと、児童の感じたことを聞きだして学びを深められるように声をかけています。

【小山市ことばを育む親の会 第1回 研修会より】

5月15日（水）に、「ことばが不明瞭なお子さんの見立てと支援のポイント」という演題で、栃木県立リハビリテーションセンターの言語療法科科長の亀田真弓先生による講演会が開催されました。講演会の内容の一部を以下に、ご紹介します。

まず、「お子さんの良いところを5つ挙げてみましょう。」ということで、2人組になって、子どもの良いところを伝え合いました。その後、ペアの方に自分の子どもの良いところを褒めてもらうという活動から、始まりました。保護者の方の嬉しそうな表情がとても印象的でした。

ことばの支援はオーダーメイド



ひとりひとりの言葉の発達状況の見立てをもとに、ひとりひとりに合った支援方法を考え、実施していくことが大切

～言語発達を促すかわりとは～

★「ことばのビル」の紹介

最上階の「ことば」にたどり着くには、「正しい生活」「体の発達」「色々な経験」を積み重ねて土台を作ることが大切である。お風呂のお湯が少しずつ貯まってくるのと同じ考え方で、言葉が貯まるとあふれる時に言葉が出てくるようになるそうです。

★モデリングの例

例：じいじ→じいじのおうちにいこうね。

おなかすいた→もうすぐおやつだね。

新しい言葉のモデルを示すことで

⇒応答の仕方、会話の方法を知らせる、自然な会話のスタイルの学びに

★良いところに目を向ける

子どものできないところはよく目につきますが、得意なこともあるはず。意識して得意なことを伸ばすことで、他の苦手として
いることも、少しずつ一緒に付いてくる。(伸ばすことができる。)

※詳しく講演会の内容を知りたい方は、資料をお渡ししますので、担当までお声がけください。